

移転価格と過小資本

ー 独立企業間取引の原則 4月から英国内取引にも適用

企業間の取引価格の妥当性を税務面から問題にする移転価格税制と、企業の資金調達に於ける負債の水準やコストを問題にする過小資本税制とは、海外展開する企業が価格戦略や資金調達方針を策定する上でゆるがせに出来ない分野です。英国ではこの四月から、国境を越えた輸出入取引だけでなく、英国内にある関連会社間の国内取引にも移転価格税制が適用される事になりました。またこれまで別個に規定されていた過小資本税制は、移転価格税制の中にその一部として定められる事になりました。

本号では、最近税務当局の動きが注目されるこの分野について概観致します。より詳細、厳密な情報は御社の顧問会計事務所或いは会議所の会員会計事務所にご相談下さい。

■ 移転価格

a. 何が問題かー利益の移転

海外展開する企業が本邦の親会社に利益を集中しようとする場合、海外子会社への出荷価格を子会社の採算ぎりぎりの高い水準に設定する事によってこれを実現することが出来ます。また逆に本邦に比較して法人税率の低い国に利益を集中する事は、本邦から当該国にある子会社への仕切価格を低くする事によって実現できます。意図的な価格設定によって利益が任意に移転される事を税務上容認しない制度が移転価格税制であり、利益を移転する目的で設定される関連会社間の価格を移転価格と呼びます。

b. 関連会社

一方の会社が他方を支配しているか、或いは双方が同じ第三者の会社の支配を受けている場合の両社の関係をいいます。通常相手方の議決権株式の50%以上を有していると支配関係にあると看做されます。

c. 独立企業間価格ーアームズ・レングスの原則

市場における正常な競争の結果成立する、独立した企業間ーアームズ・レングスの関係ーの取引価格を独立企業間価格と呼びます。移転価格税制は、関連会社間の取引がこの独立企業間価格を基準に行われる事を求めるものです。実際の取引価格を独立企業間価格で行う事が簡明ですが、課税所得を計算する税務申告上で調整する事も可能です。但しその価格が独立企業間価格である事、価格の算定根拠を説明・立証する文書を納税者の側で予め作成しておく事、が義務付けられています(=文書化の義務)。

d. 2004年4月1日からの制度

英国内で行われた関連会社間取引についても、独立企業間価格で課税所得の計算を行う事及びその根拠の文書化が必要となります。

これはEU域内に於いては、メンバー国一国の国内取引と国外との取引を分けて扱う事はしない、という考え方が基本にある為と考えられます。

● 中小規模の法人には免除措置があります。但し規模の判断は全世界のグループベースで行うので、本邦企業の在英子会社の場合は免除措置の対象とならない事も多いと考えられます。

小規模法人：従業員50人未満、且つ年間売上高又は総資産が1千万ユーロ未満

中規模法人：同上250人未満、且つ年間売上高5

2ページ下段に続く

JCCIの活動から

●会議所定例昼食会 4月20日



折田大使

会議所がジャパン・ソサエティと共同で行う今年第二回の昼食会がペインターズ・ホールで催されました。ゲストスピーカーは折田正樹大使。「世界に於ける日本の役割り」について、世界各地の問題に日本が果たしている役割りを話され、国連改革についても言及されました。

●会議所/JETRO共催セミナー 4月22日

日本と英国の文化の違いを踏まえた人事評価制度はどうあるべきかについて、ウォーターブリッジ・インターナショナル社長のボニー・ウィリアムズさんに「人事評価制度」をテーマに、JETROセミナールームに於いて講演願いました。講演終了後も活発な質疑が続きました。

●定例セミナー 5月11日



金氏

日本や英国、欧州で移転価格税制の法改正や執行上の変更が続いていることから、会議所五月の定例セミナーは「移転価格税制に変化あり」をテーマとして同税制の最近の情報を講演願いました。講師はプライスウォーターハウスクーパーズから佐藤稔治パートナーと金保仁氏、及び本邦中央青山租税戦略研所長の岡田至康氏。シティにあるチェーンバー・オブ・ SHIPPINGの会場では、英国内法人間の取引にも適用となる改正税制、欧州内各国間の相違、日本の状況などについて分かり易い解説がなされました。



岡田氏

(1ページより続く)

千万ユーロ未満か総資産4.3千未満

■ 過小資本

a. 何が問題かー利払いと利益処分

支払利息は、課税後の利益処分として実施される配当金と異なって課税所得の計算上収益から差し引く事が出来ます。この為キャッシュフロー上賄える限り、資本金を成る丈小さくして借入金を極大化しておけば、税前の段階で親会社に支払利息として移転できる金額を大きくする事が出来ます。過小資本税制は税務上この財務戦略に対して、再び特定の関係のない第三者同士の貸借取引であったなら幾らの借り入れが可能であったかを基準に金融費用のコスト性を判断するものです。前述の様に過小資本税制は移転価格税制の一部として再規定されますが、本稿執筆時点では立法の現状を把握しきれていない為、これまでの過小資本の考え方を纏めておきます。過大な支払利息が配当とみなされる事はなくなるが依然として損金不算入であるなど、基本的な考え方の変更は無いと考えられます。

b. 判断の基準

貸借の当事者間に75%以上の出資関係があるなど、特定の関係にある法人間で行われた貸借の結果発生する借入金の利息の妥当性は、概ね次によって判断されます。

- 独立した第三者の企業同士間であれば、その借入れは可能であったかどうか
- 同じくその場合、実際に貸借された金額迄の借入れが可能であったか
- 同じくその場合、金利率、条件は市場で得られたであろう水準といえるか

これらの基準によって妥当でないと判断された場合は、過大と看做される支払利息の部分は課税所得の計算上、損金に算入することが認められません。負債対自己資本比率なども考慮される様ですが、これが二対一である事とか一対一以下である事といった比率は明示されておりません。

米国に較べて税当局の姿勢が比較的緩やかであるかに見えた欧州の移転価格問題ですが、最近の当局の動向は注視を怠る事が出来ない様に思われます。

JCCIの活動から

●在英日本企業ゴルフ大会 5月16日

会議所がJALと共催する毎年恒例の「在英日本企業ゴルフ大会」が、今年もオールドソーンズG.C.に於いて開催されました。特別ゲストとして小林浩美女子プロも姿を見せた当日は102名が参加、快晴・無風のコースで腕を競いました。結果個人戦は宮川正行氏（但馬亭）がGross86/Net72のスコアで優勝、団体戦は但馬亭・西松建設組がG.274/N.221で優勝し、林・商工会議所会頭、小田JAL欧亜中近東支配人からそれぞれ優勝杯と賞品が授与されました。またベストグロス賞はGross79の矢野義博氏（Asahi Beer—当時）が獲得されました。

●FAレセプション 6月1日

英国フットボール・アソシエーションが、新築中のウェンブレイ・スタジアムのシート販売キャンペーンを兼ねて会議所会員の為に催したレセプションが、市内ソーホー・スクウェアにあるFA本部で開催されました。同日はウェンブレイスタジアムの紹介やドリンクスの後、同夜マンチェスターで行われた日本



対オールイングランド戦の様子が本部内の大型スクリーンに実況中継され、多くの会員が試合終了までレセプションを楽しみました。

●会議所/JETRO共催セミナー 6月22日

テロリズムや誘拐の危険に曝されて毎日を送る駐在員や在英邦人にとって、日常の暮らしの中でどのような注意を払ったらよいか、又企業のあるべき危機管理などについて、JEIBグループ会長の佐野圭作氏及びクレイトン・コンサルタンツ社のレズリー・エドワーズ氏に講演願いました。イラクから帰国したばかりのレズリー氏が



共催セミナー 佐野氏

ら現地情勢の紹介もなされ、多くの会員が熱心に聞き入っていました。

●欧州開発銀行ワークショップ 6月28日

欧州復興開発銀行（EBRD）による「日本企業とのビジネス促進の為にワークショップ」が、商工会議所協賛のもとロンドン・ビショップスゲイトにある同行の本部で開催され、午前10時から夕刻5時まで分野ごとに組まれたプログラムに、それぞれの関係企業者が参加しました。中欧・東欧や旧ソ連地域の復興・開発支援を目的に1991年に設立された同行から、EBRDと共にビジネスを行う事のメリットや具体的なプロジェクトの紹介など、有益なレクチャーがなされました。

●フライ新駐日大使歓送レセプション 7月12日



ジャパンソサエティ、日本クラブ及び商工会議所の三組織が、在英国日本大使館から会場の提供を受けてグラハム・フライ新駐日大使ご夫妻を歓送するレセプションが、同大使館のホールに於いて賑やかに開催されました。折田大使、及び三組織を代表してサー・ジョン・ホワイトヘッドから歓送の辞が述べられ、フライ新駐日大使が旧知の土地に赴く喜びや緊張などを答辞に述べられました。

●NHKのど自慢大会・イン・ロンドン 7月24日

昨年9月にのど自慢大会協議会を結成して以来、会議所、日本クラブによる実行委員会会員企業や在英日本人会、個人各位の多大な協力の下に進められてきたNHKとの共催によるのど自慢大会・イン・ロンドンは、晴天のアレクサンドラ・パレスに4千人を超す大観衆が参集され、にぎやかに開催されました。

会員だより

Daikin Airconditioning UK Ltd.

エアコンと言えば「ダイキン」

“Phew! What a scorcher! (フーなんて暑い日なんだ)”

今年の猛暑を覚えておられますか？暑いのは日本だけかと思ったら…、イギリスも年々暑くなってきていますね。弊社は、ベルギーでエアコン生産を始めて30年の歴史をもつダイキン・ヨーロッパ社の子会社で、昨年、現地代理店3社を買収して、“ダイキン・エアコンディショニングUK Ltd”を設立いたしました。イギリスでのオフィス、店舗、ホテルへのエアコン需要は年々増加しており、冷暖房の快適性はますます求められております。ダイキンは顧客サービスの向上を目指して、北はグラスゴー、エジンバラからマンチェスター、リーズ、バーミンガム、ブリストル、首都ロンドンと主要都市に販売網、技術サポートを持っており、250人のエアコンのプロたちが毎日活躍しております。また、花粉症やニオイ対策として脚光を浴びている光触媒による空気清浄機も発売開始しました。日本のエアコンのトップメーカーとして、省エネ、低騒音のエアコンを提供して、英国で働かれておられる日本人の皆さんが少しでも快適にお仕事ができますよう社員一同頑張りますので、今後ともよろしく願いいたします。

ご興味のある方は<http://www.daikin.org.uk>にアクセスしてみてください。



かつての話題、ロンドンタクシーの広告

JEOL (UK)

JEOL (UK) の紹介

JEOL (UK) は日本電子 (株) の現地法人とし

て1968年設立され現在55名で電子顕微鏡、NMR等の理科学機器、及び半導体製造装置の販売、据付サービス業務を行っています。顧客はオックスフォード、ケンブリッジを始めとする各大学、主要な国立研究所、民間の研究所、半導体の会社になります。

クリスマスレクチャーで有名なロイヤルインスティテューション、ファラデー講義室でのユーザーズミーティング開催等イギリスのアカデミック研究機関との緊密な関係を築いてきたのではと思っています。

欧州ではUK以外北歐、フランス、ベネルックス、ドイツ、イタリーに同様現地法人を持ち、総勢200名程度で仕事をしています。その90%近くは現地の人達になりますが 創造性、研究開発を通じて社会と科学の発展に寄与すると云う社訓が従業員皆さんに浸透している様です。



オフィスの前にて

London Research International Ltd.

Innovation and Quality

ロンドンリサーチインターナショナルは、ロンドンを拠点に、EU、東欧、CIS諸国を主な対象として、委託調査業務、エンジニアリングコンサルティング業務、プロジェクトマネジメント業務を行っています。弊社の調査分野は多岐に渡りますが、とりわけエネルギー・環境、IT、建設 (PFI含む) に関連するプロジェクトを多く扱っています。エンジニアリングコンサルティング業務は、日本政府のODA、欧州復興開発銀行、世界銀行のプロジェクトを中心としています。近年は英国企業に対して東欧における市場

調査のサービスも提供しています。私たちは、様々な分野の専門家に加えて、北米を含めたOECD加盟主要国に調査員を有しており、そうすることによって、クライアントの多方面に渡るニーズに応じています。代表取締役の津村照彦は、会社設立前にパシフィックコンサルタンツインターナショナルにて、日本のODAを含む海外建設プロジェクトのマネジメントを長年行ってきました。

www.LondonResearchInternational.com



取締役一同

NIPPON GOHSEI UK LTD

日本企業による初の大規模石化プロジェクト、Hullで本格稼働開始

日本合成UKは日本合成化学の100%子会社で、酸素バリア性に優れたEVOHという合成樹脂原料の製造工場です。3年前に設立され、一昨年4月に着工し、今年5月から本格操業を始めました。

工場はヨークシャー地方の南、ハル市郊外のBPの工場団地の中にあります。土地・インフラ・原料はBPの提供を受け、何かと便利ではありましたが、英国の化学工場はここ数年新設がなく、我々の工場は各種安全規制が厳しくなってから許可された最新鋭の工場で、ここまで辿り着くのに相当気を使いました。おかげさまで建設中は事故もなく、百万時間無事故の記録を達成しました。

地場を中心に70人弱を新たに雇い入れました。総じて勤労意欲も高く、新しい会社を自分たちで作りに上げていくのだという意気込みがひしひしと感じられ頼もしい限りです。

私たちの製品はソアノールという商品名で既に皆さんの日常の食品包装に使われています。マヨネーズのチューブ、チンご飯の入れ物、ハムやチーズの真空パックなどをご覧になったら当社の製品が使われていると思ってください。



ハル工場全景

TOKYU TRAVEL (EUROPE) LTD

お任せください、日系企業戦士の皆さん！

Tokyu Travel (Europe) Ltd は1978年に東急観光株式会社のロンドン駐在員事務所として設立され、1986年に欧州東急観光として法人登記をしました。そして今にいたる26年間、ロンドンの日系旅行代理店として皆様に親しまれてきました。

業務内容としてまず現地日系企業の主張サポートがあげられます。日本行きはもちろんのこと、世界中を飛び回る日本のビジネス戦士たちの出張をサポートしてきました。航空券、ホテル、ユーロスター、レンタカー等をプロフェッショナルなオペレーターが日本語にてサポートします。

さらにもう一つの重要な業務が、ヨーロッパ中に点在する日系企業のインセンティブ旅行や会議、展示会の企画立案です。お客様はイギリスはもちろんのこと北は北欧から南は南アフリカまでおよびます。特に日本行きインセンティブに関してはおかげさまでヨーロッパじゅうの日系企業より高い評価をいただいております。

もちろん日系企業の方々のプライベート旅行、里帰り便、呼び寄せ便等も扱って折ります。Tokyu Travel (Europe) Ltdは、欧州の日系企業の皆様によって支えられてきました。これからもどうぞ宜しくお願いします。



わが社の面々

ゴルフ談義

ゴルフいろいろ?!

NIPPON OIL (UK) PLC / Managing Director 高山 和義

「2ヵ月後に支店対抗のゴルフコンペがあるから参加すること。これは業務命令だ!!」と突然上司に通告され、驚きと不安と怒りを感じながら初めてゴルフクラブを握った。もう二十年以上前のことである。兎に角、華々しい(?) デビューを飾り、それ以来様々なゴルフコースで様々なゴルフを楽しんできた。

業務命令でゴルフを始めた地は北海道。始めた頃は天才ではと錯覚するほどの長足の進歩、ゴルフが面白くて仕方がない。雪のちらつく12月にもかかわらず、ダウンパーカーを着込んでいざ出陣。雪積もるグリーン上でパットをすると、ゴルフボールは進行方向に沿って雪を付着し、球状からタイヤ状に変化する。転がれば転がるほど大きくタイヤ化したボールはその不安定な形状から止まる瞬間にぱたりと横に倒れる。そんなゴルフも愉快である。

打って変わって中東駐在時は砂漠での灼熱ゴルフ。緑のゴルフコースもいくつかあるが、土漠の砂ゴルフ場はまた格別に熱く中東のゴルフに相応しい。グリーンはアスファルトで作られているのでブラウンと呼ぶ。表面に薄く砂がまいてありブラウンの速さを微妙に変える。厄介

なのはブラウン上の砂にパットの軌跡と足跡が残るためホールアウト後にそれらを丁寧に箒で掃き消さねばならぬこと。ホールを起点に後ろ向きに箒を構え渦巻きを描くように跡を消す。因みに気温50度、湿度90%、消し終り頭を上げた瞬間眩暈を感じることはしばしば。緊張感溢れるゴルフである。

またあまり知られていないが反帝国主義のイランにも帝国主義の象徴であるゴルフ場が存在する。シャーの時代の名残である。元々は18ホールの本格派ゴルフ場であったが一部軍に取用され13ホールになったらしい。一部軍の施設との隣接ホールではマシンガンを構えたギャラリーが金網越しに帝国主義者の非生産的行為を不思議そうに監視する。コースメンテナンスについてはお世辞にも行き届いているとは言えない。グリーン上でラインに乗ったボールがカップ直前で目の前から消えた瞬間は流石に唾然。カップの手前に蛇かモグラの穴があり、見事にそこにホールイン。グリーン上にハザードのあるゴルフは結構厄介である。はてさてゴルフ発祥の当地では――。



※新聞に掲載されたもの

ドバイ・エミレーツゴルフクラブ月例会にて

旅の話

愛国的スコッツ

全日空 欧州・中近東・アフリカ地区総支配人 米里 文明

これまでの人生で、アメリカ・フランス・イギリスと3ヶ国に住む機会を得て、その都度「この国のこと何も知らなかったな」という思いを抱いてきました。

昨年5月に、ロンドンへ移り住んでから、最初の夏休みはスコットランドへ、と決めたのも、日常生活の端々で、英国の人々から感じる出身地へのこだわりが、私達日本人が故郷の話をする時とは、ちょっと違った感覚で伝わってきたことが理由の一つでした。地図で見えてきたイギリスは、一

つの国ではないように思えてきたのです。

エジンバラに滞在し、休養だけを目的とした旅行でしたが、一日だけは、ネス湖へのバスツアーを予約しました。ここで出会ったのが観光バスの運転手兼ガイドのピーターです。16人乗りのバスには、私達夫婦の他、中国人の青年・日本人女性の語学留学生・フランス人・ドイツ人・イギリス人らしき夫妻が一組と、色とりどりの参加者が集まってきました。

8時20分に出発して、30分も走ると、絶え間なく話しつづけるピーターは、ただのスコッツではないことを、同乗者全員が知ることとなりました。エジンバラから北西に向ってゆく道中の案内のすべては、13世紀のイングランドとの戦争の歴史であり、それにまつわる史跡の説明の繰り返しです。どっちが勝ったとか負けたとか。彼にとっての異

7ページ下段に続く

私の健康管理法

KPMGロンドン
日本関連事業部欧州統括ディレクター 山田 章雄

健康管理は、老若男女を問わずとても大切なことである。そして私も皆さんと同じように、健康は最大の関心事のひとつである。

まず、健康に気をつけるようになったきっかけについて。少々古い話だが、それは2000年5月、ロンドン郊外、自宅近くにあるセルズドンパークホテルゴルフコースでの出来事。砲台になっている4番ホールのグリーンめざして「ソレー」と勢いよく登りかけたたん『ドーン』、と右足のふくらはぎに後ろからゴルフボールが直撃した、と本当にそう思った。後ろを振り返って犯人探しをしようとしたが誰もいない。足を動かそうとした次の瞬間、激痛がはしった。完璧な肉離れ。何とか車を運転して家に戻り、翌日医者に行った。医者は「運動不足です」の一言。

そう言えばその一ヶ月前に受けた人間ドックでは肝脂肪が多すぎます、すなわち成人病



の予備軍です、との判定を受けていた。そして肉離れがようやく直った頃、エジンバラに行ったとき紹介された初対面の老婦人から、「山田さんは太りすぎです」という率直なお言葉をいただいた。同じ時期に母親から太りすぎに注意を促す新聞の社説の切り抜きが届く。これで私の心は決まった。80キロに達しようかという体重の減量作戦が始まったのである。

それ以来、朝のジョギングを始めて丸4年が経過した。毎日走るわけではなく、出張時や帰宅が遅くなった翌日は無理をしない。最初の一年間で体重はみるみる減り、一時やせ過ぎとまで言われたが、今は68キロ。当初の減量作戦の目的は無事達成されたようである。

今の時期は朝が実にさわやかで、次から次へと木々の緑が目飛び込んでくる。道ばたではリスに出会い、キツネは目が合うと驚いたように隠れてしまう。鳥たちの朝の合唱は耳に心地よい。走り終わった後、万病の元といわれるストレスは解消されている。ただ悲しいかな、その直後から、多かれ少なかれまたストレスがたまっていく生活が始まるのである。健康のために、と始めたジョギングだが、ここまで続いたのは日本では得がたい英国のすばらしい環境によるところが大きいと感じる。これからも身近に自然を感じながら、健康のためジョギングを続けていきたいと思う。

6ページより続く

邦人である、われわれ同乗者たちが、スコットランド人気質を同時に理解した瞬間でした。何と執念深い人達か。「スコティッシュ・ウィドウズ」は、この時に戦死した兵士の未亡人たちの財産運用を始めたのが起源とか。ここにも、「一ペンスもイングランドに渡してなるものか」との気概を感じます。

その後ハイランド地方をぬけて、ネス湖から東海岸へ向うの車窓からの素晴らしい景色を眺めながらも、つい夢うつつになってしまう我々に対して、ピーターが語りつづけるスコットランド独立への夢は、目を潤ませながら歌う「フラワーズ・オブ・スコットランド」で頂点に達しました。「スコットランドにも5年前にやっと議会ができました。欧州にはスコットランドより人口の少ない国はたくさんあります。5年後は無理かもしれま

せんが、20年後に皆さんが来られる時には、必ず独立国家となっています。」

バグパイプの奏でる「蛍の光」を聞きながら、独立の日のピーターの姿を思い浮かべます。



♪ NHKのど自慢大会・イン・ロンドン♪

NHKのど自慢大会・イン・ロンドンは在英日本商工会議所、日本クラブ、英国日本人会、在英国日本大使館、在留邦人各位の協力の下、7月24日ロンドン北部にあるアレクサンドラ・パレスに多数の観衆の来場を得て開催されました。以下にロンドン大会の主な事柄を記録して報告とさせて戴きます。本大会を成功に導かれた関係各位のご尽力、ご協力に厚く御礼申し上げます。

なお、在英日本商工会議所気付実行委員会事務局は同日付けを以って閉局し、電話(020) 7374-4561及びEメールアドレス nhknodo@jcci.org.uk もクローズ致しました。

本大会について爾後照会等が必要な場合は、商工会議所事務局までご連絡下さい。

1. 日 時 2004年7月24日(土) 午前11時30分～午後12時45分(予選は7月22日(木) 午後1時 - 審査発表午後7時)
2. 会 場 アレクサンドラ・パレス
Alexandra Palace, Wood Green, London N22 7AY
3. ゲスト 森進一、小林幸子、司会/宮川泰夫アナウンサー

特別ゲスト：ウェールズ近衛連隊音楽隊

4. 入出場者数 観覧入場者4,164人
本選出場者26組(予選出場者207組、予選応募者586組)
5. 放送 英国時間 7月24日(土) 午前11時30分～午後12時45分 JSTV 生放送
日本時間 7月24日(土) 午後7時30分～8時45分 同時live NHK総合、衛星ハイビジョン、衛星第二、ラジオ第一

■ 実行委員会(法人名のみ、順不同、名称は略称)
NHK、三井物産、三菱商事、東京三菱銀行、JR東海、日本航空、丸紅、キャノン、日本郵船、みずほコーポレート銀行、日立、JSTV、全日空、ミキ・トラベル、東芝、フジサンケイ、日通、NTT、大成、OCS、a Concept、朝日新聞、電通、加藤メディア、博報堂(Mustoes)、読売新聞 / 在英日本商工会議所、日本クラブ、日本人会、日本大使館

*PC賞与：東芝 *コピーマシン賞与：キャノン

*特別協力：奈良由梨、渡辺武彦(共に Westminster 大)

■ 編集後記

作曲家と詩人—ショパンやモーツァルトの話ではありません。のど自慢・イン・ロンドンに因んでクイズの一つ。「男の純情」、「影を慕いて」、「湯の町エレジー」これらの歌の作曲者を当てて下さい。なァーんだと思われませんか。若い世代には全く不可解な化石的質問かも知れません。中年以上の世代にはクイズにもならない話でしょうか。「丘を越えて」や「りんどう峠」を加えるまでも無く、正解は昭和の大衆歌謡界にヒット曲を送り続けた作曲家、昭和53年(1978)に国民栄誉賞を受賞した古賀政男氏(以下敬称略)です。「ダサイ演歌」と切り捨てますか? だが彼のメロディーを素直に聞けば、その優しさや叙情、または弾むようリズムや明るさが、私(達?)の心に自然な共感を呼ぶ様に思うのです。最近、古賀より十七才年上の詩人萩原朔太郎が古賀政男を論じている文章に偶然出会いました。「僕等が要求する現在の芸術は、西洋人の模倣をする借り

着物の芸術ではなく、さりとて又日本の古い伝統を、そのクラシックの原形のままで襲套(しゅうとう)する芸術でもない。僕等が現に生活している実社会に於いて…民衆の真の吐息、真の感情、真の想念を表現してくれる芸術に外ならないのだ。ところで僕は、そうした真の芸術家を、少なくとも自分の周囲に二人知っている。一人は歌人としての故石川啄木であり、一人は音楽家としての古賀政男である。…彼らのロマン情操は、一民衆の真の悩み、真の情緒、真の生活を、その生きた現実の吐息に於いて、まさしくレアールに体感しているロマンチズムである。それ故にこそ彼らの芸術は—最もポピュラーの普遍性を有するのである。」(社会思想社、日本流行歌史 抜粋) 萩原の表現は時代を反映してレトロですが、「月に吠える」の詩人萩原朔太郎が古賀政男を評価していたとは。私には一寸した発見でした。

(T)

* * *